

## 意見書

本日は第 1 回の会合へ参加が叶わず、申し訳ありません。事務局にご面倒をおかけしますが、本日の会合について意見を以下に記させていただきます。

小売全面自由化開始後 3 年を経過し、2020 年 4 月における法的分離を目前に控えて、システム改革の成果を最大限に生かすためにも、本来目指すべき持続可能な電力システムとは何かを振り返り、必要に応じて現状のシステムを再構築する位の覚悟をもって、残された課題に取り組むという本研究会の意義は時機を得ているものと思います。自由化の進展を前提とすれば、システムのレジリエンスから議論を始めることにも、違和感はありません。以下、各論について言及をします。

## c. 「電力会社による個別情報の自治体等への提供の論点」について

災害の早期復旧という公益的な目的のために個人データが利用されることは合理性を有すると思います。他方で、社会的解決等のための電力データの活用については、個人が自らの意思で自らのデータを蓄積・管理することで、個人のエンパワメントや、多様な個人による社会の持続的な発展に寄与することを前提に、①囲い込まれることのない円滑なデータ流通に向けた環境整備と②個人が安心してデータを利活用できる環境整備の双方が求められるように思います。

## d. 「地域間連系線の増強を促進するための制度整備の論点」について

(1) 全国調整スキームの設計において (P10)、広域機関が策定した計画を民間企業が整備する場合には、たとえ社会厚生観点から費用対効果を有するとはいえ、適切な料金算入がなされなければ、持続可能な電力システムとは言えないのではないかと思います。最終的には国が「認可」した計画を民間に実施させるために必要な事業性は、電力・ガス取引監視等委員会にてきちんと担保するよう、他の行政部局が同様に関与することも場合によっては求められるのではないかと思います。

(2) FIT 賦課金方式において (P11)、地域間連系線の増強が再エネ導入促進効果をどの程度生み出すかを評価する際に、①の短期的効果は現実に近いシミュレーションを行い得ると思われませんが、②の中長期的効果がどの程度効くのかは、シミュレーションの前提条件の現実妥当性を確認することを要するように思います。

## e. 「送配電網の強靱化とコスト効率化の両立の論点」について

医療技術に流派がある様に、送電・配電部門においても種々の技能が並列して存在すること自体は自然なことかもしれません。そうした現実があるのであれば、その技能の範囲・レベルを崩してしまうほどの仕様統一を要求することは、中長期的にはメリットがあるもの

と思いますが、短期的には混乱を引き起こしかねない可能性もあり、現場を見ながら進めていくことが肝要と思います。効率性の観点というよりは、担い手不足の中で技能継承をいかに進めていくかの視点から、仕様統一を捉えていくことが重要と思います。また、民間企業が事業性の中で計画を遂行する以上、きちんとした設備更新計画が提出されるように、過度に厳格な査定や無理なコスト効率化を求めるのではなく、自主性や自律性を尊重することも中長期的なコスト削減には大切な視点と思います。

f. 「災害に強い分散型グリッドの推進の論点」について

供給安定性が現状と同等以上に確保されることを目指して、住民の了解を踏まえつつ、系統のレジリエンスを高めるために代替的な地域分散型の電力供給のあり方を探ることは、進めていくべき視点と思います。地域分散型グリッドとして独立系統を形成する場合は、各戸で独立的に電力を賄うことを志向する家庭を多く有する地域もありそうに思います。こうした点をマイクログリッド実証として執り行うこと自体は良いと思いますが、これまでも同様の実証実験が行われたこともあり、そうした過去の実証実験における成果と反省点を明示的に踏まえた上で、取り組んでいただきたいと思います。

以上